

市長室：対話の記録

要旨

開催内容の公開

対話の内容

【市長あいさつ】

【意見交換】

- ①災害時の対応について
- ②農地の転用について
- ③バス路線の変更について
- ④郷土資料館のPRについて
- ⑤消防団について
- ⑥まちづくりについて
- ⑦高齢者施策について
- ⑧土木工事について
- ⑨バスの乗り継ぎ券をつかってほしい
- ⑩環状線周辺と中心市街地の活性化について
- ⑪新道の建設について
- ⑫道の駅について
- ⑬市に対する要望の方法について
- ⑭市職員の町内会加入について
- ⑮市街化調整区域について
- ⑯西神楽公民館と農業構造改善センターの指定管理者による運営について

【市長終わりのあいさつ】

第52回目となる今回は、市内の西神楽地区瑞穂、西神楽地区中央、西神楽地区聖和、西神楽地区千代ヶ岡地区にお住まいの方をはじめとする市民の皆さんと懇談しました。

21の方が参加し、地域特有の課題や、市政やまちづくりに対する意見など、活発な意見交換が行なわれました。



日時	平成22年8月31日(火) 午後6時30分～午後8時00分
場所	旭川市西神楽農業構造改善センター 講堂(旭川市西神楽南2条3丁目)
出席者	・西川市長 ・市民(21人)

対話の内容

参加者から寄せられた意見や提言・要望と市長のあいさつ・コメント等、対話集会の内容を要約したものを掲載します。

※参加者はアルファベットで表しています。

同じアルファベットの表記は同一人であることを示しています。

【市長あいさつ】

皆さん、こんばんは。

今日は西神楽地区の4つの市民委員会であり、瑞穂、中央、聖和、千代ヶ岡の皆さん方にご案内をさせていただきました。これらの地域以外の方もお越しかもしれませんが、どちらの地域の方が参加されても結構でございます。今日は皆さん大変お忙しい中かと思いますが、お集まりをいただきましてどうもありがとうございます。

こちらの地域におきましては、今回で2回目の開催となります。前回は2年前の11月に開催させていただきました。ちょうど今、農繁期にまもなく、もうすでに入ってるかもしれませんが、お米の方は、多分あと数日で、1週間以内には収穫作業に入ってくるのかなという時期でありまして、農家の皆さんにとっては、ちょうど忙しい時期で、今日の対話集会にはなかなか来れない時期になってしまったのかなと思います。このような時期になってしまいましたことをお詫びを申し上げます。

今日は、いつもとは違い、土木部と消防本部の職員が同席していますが、ご承知のように先

日、24日の豪雨によりまして、床下浸水や道路の冠水等がありましたし、また特に地域の皆さんに整備管理をしていただいているさと川パークゴルフ場等が大変な被害にあったということもありまして、今日は土木部と消防本部の職員が出席しているということでもあります。またいろいろな部分で、皆さんのご意見などをぜひ聞かせていただければと考えております。

この対話集会は本日で52回目となります。地域の皆さんや団体の皆さんとこれまで開催してきていますが、各地域での対話集会は本日で31回目であり、ちょうど市内各地域を2巡させていただいたこととなります。私の任期があと2か月と少しなのですが、対話集会については、今日で一応最後となる予定ではありますが、最後がこちらでの開催となってしまったことをお詫びしなければいけないのかなと思っています。これからの約1時間半、また皆さんからいろいろな話を聞かせていただきたいと思いますと考えております。

これまでこの対話を通じて、地域の課題についてのご意見や、様々な要望等もたくさんいただいております。このように意見交換をさせていただくことで、より行政と地域との意思疎通ができるという部分でも、この対話集会はすばらしい機会だと考えており、これまで続けてきているところであります。

こちらの地域については、水田地域でもありますし、またその他畑作も非常に盛んな地域でもあります。また丘陵地帯も広がっておりまして、観光客や市民の皆さんの憩いの場所という面もあるのかなと思います。また市内でも先進的なNPO活動をされておりまして、ランドワーク西神楽さんの活動も本当に顕著なものがあると思っております。美瑛川のリバーウォッチングですとかホテル祭りなども地域において開催していただいております。さと川パークゴルフ場についても、地域の皆さんが造成し、管理・運営していただいているということであり、市内でのモデル的な地域となっているところであります。今、地域力という部分を市の大きな柱としての取組を始めさせていただいているところでありますが、この地域については、特に先進的な地域、モデル的な地域ということで、この取組をこれから他の地域にぜひ拡大していきたいと考えています。

また、今年4月から西神楽公民館と、今日の会場であります農業構造改善センターに指定管理者制度を導入しております。西神楽まちづくり委員会の皆さんによって運営していただいているところでありますが、これも協働という部分における大変すばらしい取組の1つであると考えておりまして、これについても他の公民館等にも今後順次拡大していきたいと考えているところであります。

これまでいろいろなご意見をいただいた中から、少しずつ市政に反映させていただいてきております。例えば保育所の待機児童の解消や、発達障害のあるお子さんが通う施設の受入体制の充実などもあります。また落葉回収を行ってまいりましたが、集めた落ち葉を腐葉土化して市民の皆さんに還元するという事業も始めさせていただいております。3年前に回収した落葉が腐葉土となっておりますので、各町内や各団体の皆さんの花壇づくりや植栽などにぜひ使っていただければなと思っておりますので、こちらの地域の皆さんもぜひ活用してください。

こちらの地域については、かねてから十五号川の改修についてのご要望がありますが、現在、平成24年度の完成をめざして、改修工事が進められているところであります。

その他、前回の対話集会でご意見をいただいておりますが、通学路の整備等についての要望をいただいております。西神楽の北1条3丁目と北1条4丁目の間の小学校通学路における歩道整備についてという要望についてですが、現在、この区間の一部に私有地があり、この用地の確保ができていない箇所があります。この用地の確保ができたい、歩道整備を検討してまいりたいと考えております。

また、除雪についてですが、北2条3丁目の一部区間についての除雪要望がありました。こちらについては、今年度から除雪対象区間として現在検討を進めているところでございますので、ご了解をいただきたいと思います。

地域とは直接関係のない、全市的なお話になりますが、今年、旭川は開村120年を迎える年でありまして、9月に記念式典、10月には記念事業を開催するべく、そのための準備が最終段階にきています。こちらの会場の1番後ろにもポスターを貼らせていただいておりますが、「北の恵み 食べマルシェ」ということで道北一円の海産物・農産物をこの旭川に集めて、食と農と、また健康というテーマでのイベントを開催する準備をしているところであります。ぜひ西神楽地域の皆さんも大勢参加していただいて、この120年を一緒に盛り上げて楽しんでいただければと思っております。

います。

また、最近の話題では、上海、北京と、中国からの飛行機が旭川空港に今たくさん飛んできております。現在は上海から週2便飛んできておりますが、市内でも多くの中国の方を見かけるようになりました。北海道が大変人気があることと、ご承知のように、ビザの発給基準が緩和されたということで、今後さらに多くの方がこの旭川に来ていただけるようになると思っています。

また、これまで進めておりました企業誘致についてですが、「(株)ヤマザキ」という、セブン・イレブンやイトーヨーカドーに惣菜等を卸している静岡の企業が、平成24年の稼働に向けて、これから工場が建設される予定です。当面100人程度の雇用がここで生まれる予定です。私がこの「ヤマザキ」という企業に期待しておりますのは、何しろ全国ネットになっておりますセブン・イレブンの取引があるということで、この地域の食材を使った惣菜を全国に発信していただけるということです。私たちの地域の農業や食品のPRという部分では大変大きな発信力があるのではないかなと考えています。このヤマザキの立地を、私たちの地域が食品産業の集積地、また農業の集積地としてさらに発展していくきっかけとしていきたいと考えています。



今年の120年記念事業も「食」と「農」というテーマでありますし、農業はこの北海道の中でも特に旭川に優位性のある産業であり分野であるという期待を持っておりますので、この部分についてもぜひ西神楽の皆さんとも一緒にこれから進めていくことができればと考えております。

また、今年、米粉プロジェクトをスタートいたしまして、今年の春に作付けしたものが間もなく収穫となりますが、11月から市内の小・中学校の給食のパンを米粉パンに切り替えていく予定です。今後順次、学校給食のパンだけでなく、麺類などにも米粉を使うようにしてさらに米の需要につなげていきたいということと、旭川発のブランドをぜひつくりあげていきたいなと思っています。

せっかくの機会ですので、いくつか市政の報告もさせていただきました。この後はぜひ皆さん方からのいろいろなお話をいただきたいと思っております。

それと、先週末に瑞穂会館がオープンいたしました。お聞きしたところ、地元の方からの寄付を約1,500万集めていただいたということであります。なかなか他の地域ではここまで寄付を集めるのは難しいのかなと思います。本当に皆さんの団結力といいますか、結束力を実感させていただきましたが、この瑞穂会館がこれから多くの方に愛されて、また地域の拠点として発展していきますことを期待しているところでございます。

簡単ですが冒頭に当たってのあいさつに代えさせていただきます。今日は皆さんといろいろな意見交換ができればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【意見交換】

①災害時の対応について

参加者A

6月20日の大雨で西神楽の道路や住宅が浸水しました。その日は日曜日だったのですが、緊急事態であったため市役所に電話をしたところ、宿直の人に「今日はお休みなので分かりません」と言われました。緊急の災害時にこのような対応はおかしいと思います。

また、このような災害時の連絡体制がどのようになっているかわかりません。先日の24日にも美瑛方面に大雨が降り、美瑛川が氾濫寸前になりましたが、土木部ではどのような連絡を行っていたのでしょうか。やはりこうした災害時には消防、警察などの関係機関との連絡体制を密にしてほしいと思います。

市長

市役所が休みの日に市民の方から何か連絡を受けた場合は、その内容をすぐ担当部署につ

なげるということになっていますが、そのような対応をしてしまったことについてお詫び申し上げます。何かあったときに迅速に対応することは行政として大変重要なことですし、私どももこれまでそういう体制を行っておりますが、今回の事を機にもう一度その辺を再徹底してまいりたいと思います。

土木総務課長

8月24日の連絡体制についてですが、朝の6時30分に土木部で連絡待機を取りまして、その直後に神居地域、神楽地域、そして西神楽地域のパトロール指示を発しました。今回冠水しました西神楽の2,030戸、辺別川のところについては警察がまず6時45分ぐらいに現地派遣しておりまして、私どもは7時45分の段階で現地に到着しています。実際6時30分から45分ぐらいに警察の方で通行止めさせていただいておりまして、最終的には土木部が現地に到着した段階でしっかりとバリケードを張って通行止めをいたしました。

参加者A

西神楽地区推進協議会の中でもこうした課題が出て、私どもも消防や警察と連絡を取り合うことを考えていますが、市の方でもそうした連絡体制をきちんとしてほしいと思います。

市長

貴重なご意見、ありがとうございます。

②農地の転用について

参加者B

旭川市近郊の東神楽町・東川町・当麻町・鷹栖町などでは積極的に農地を宅地に転用しています。旭川市の国勢調査では人口が減ってきてますが、東神楽町などは逆に増えているのではないのでしょうか。さらに旭川市内には後継者のいない農家が全体の80%を超えていると思われまます。それならば旭川にも中心部に近い農地がたくさんあるのですから、積極的に農地を宅地に造成し、人口を増やせば国からの地方交付金も多くもらえるのではないかと思います。

③バス路線の変更について

参加者B

西神楽地域からバスで旭川駅近くまで行く際、いまだに神楽本町を回っていかなければなりません。旭川に合併した昭和43年までは神楽本町が役場の所在地でしたので利用していましたが現在用事はありません。これから新しい駅ができて駅裏に橋もできることですし、バス路線の変更も考えてほしいと思います。

また同じくバスで永山方面に行くという場合には、やはり神楽のまちを回り、駅前まで行ってから永山方面のバスに乗り換えなくてはなりません。もし道道環状線にバス路線をつくって、西神楽旭川環状線の4号に循環バスの停留所をつくれれば永山へ行くのに大変便利になると思います。

市長

バス路線の変更については、旭川駅と神楽方面を結ぶ2本の新しい橋が架かりますので、これによってバス路線も少し変わってくるだろうと思います。私どもも地域からの路線変更の要望を道北バス、電気軌道バスに対して毎年行っておりますが、バス会社の事情やバスの運行体系などの問題もあり、なかなか要望通りになっていない現状です。しかしながら、市街地から離れてる地域のバスの便が年々悪くなっていることには、私どもも非常に危機感を持っておりまますので、今後、もし大きなバスを走らせることが難しくなってくるということであれば、市としても別の公共交通機関も視野に考えていかなければならないと思っています。ほかの町では乗り合いでマイクロバスを走らせたり、タクシー会社と契約をして、小回りのきくような走らせ方をしたりするなどいろいろなことがスタートしていますので、そういったことも含めて検討していきたいと思います。

④郷土資料館のPRについて

参加者C

平成11年に西神楽公園パークセンター内に郷土資料館を開設し、現在も毎週土日の2日間開館しています。地元小学校の授業で生徒さんやキャンプ場利用者の方が見学に来られていますが、平日でも申し込みがあれば開館いたしますので、何とか市の方でも西神楽郷土資料館をPRしていただきたいと考えております。

市長

私も郷土資料館についてちょっと研究をさせていただきたいと思います。

⑤消防団について

参加者C

西神楽の消防団についてですが、西神楽に住む若い人が少なくなってきて、離れているところから出動している消防団員もいますので何とか良い方法を考えていただけたらと思います。

⑥まちづくりについて

- ・何を重点的にまちづくりをしていくかについて
- ・市で困っている問題などを市民に投げかける場があるべき

参加者D

まちづくりというものは2年や3年の短期間でできることではありませんが、立派な市長や職員がいるうちに素晴らしい旭川のまちづくりをしていただきたいと思います。今後、市は何を重点的にまちづくりをしていくのでしょうか。

市長

これからのまちづくりにとって若い方が地元で仕事を探し、結婚してここで暮らしていけるかということは大変切実な問題ですし、また高齢者の方にとっては病院や高齢者施設などの医療福祉施設がどれだけ充実していくかということも大変重要な課題と考えております。これから団塊の世代の皆さんが大量に退職をされて年金受給世代に入り、あと10年前後には75歳を迎えられるわけですが、東京には高度経済成長時代に旭川から出て行った方がたくさんおります。東京は若い人にとっても高齢者の方にとっても仕事をするのには良いですが、住むにはやはり北海道が一番だと思っています。ですから旭川にご縁のある方は、やはり旭川に帰ってきてもらいたいと思っていますし、そのためにはそういった人たちが帰ってきていただけるようしっかりとした受け皿をこれから本格的につくっていかねばいけないと思っています。

参加者G

対話集会などこのような市民が集まる場で、市長や市職員から、「今、市ではこういうことで困っている」、全市民的なことではなくても、例えば「永山の方ではこういうことで困ってる」、「神居ではこういうことで困ってる」など、市としても苦慮していることを逆に市民にお話ししていただけると、何かいい知恵が出てくるのではないかと思います。市民、住民側からの一本通行ではなく、市の方からそういった困ったことを逆に市民に投げかけるような場があると良いと思います。

市長

市の方からもいろいろな課題や問題などのご相談を、地域の皆さんに投げかけていくことも少しずつ検討していきたいと思います。

⑦高齢者施策について

参加者D

高齢化の時代に入ったわけですが、旭川に老人ホームなどの施設はどのぐらいあるのでしょうか。これからはこうした施設にしても国や道などに頼りすぎず、市民一人一人が「自分たちの

まちなのだから協力していく」という意識を持たなければならないと思います。

市長

現在市内には 200 以上の高齢者福祉施設がありますが、今後またおそらく足りなくなっていくと思いますので、それに応じてまた数を増やしていかなければいけないと思っております。市単独でできることには限界もありますので、国に対してもっとすばらしい医療制度や介護制度、またそれに対しての地方への助成補助などもしっかり要望していかなければいけないと考えております。

⑧土木工事について

参加者D

市が業者に発注している土木工事についてですが、よく見ると危険なところも多く見受けられるようなので、事故などが起きる前に業者に注意するようにはしていただきたいと思います。

⑨バスの乗り継ぎ券をつくってほしい

参加者E

先ほどバス路線についてのご意見がありましたが、バスの乗り継ぎ券も出していただきたいと思っております。ほかの市町村では1枚のカードで何社も乗れるというような乗り継ぎ券も出されていますので、是非検討していただきたいと思っております。

市長

私どもも市内に2社ありますバス会社のバス乗り継ぎ券が実現出来たら、本当にいいだろうなと思っております。これまでも両バス会社には要望してきておりますが、改めてお願いをしたいと思いますと考えております。

⑩環状線周辺と中心市街地の活性化について

参加者E

現在環状線沿いには様々な商店が並び、周辺は大変活気に溢れています。しかしながら、市は郊外の造成を止めてまで中心市街地を活性化させる計画を進めています。これではせっかく活気のできた環状線沿いや郊外が衰退してしまうのではないのでしょうか。単に郊外から中心部に人を移動をさせようとしているだけに感じます。

市長

昨年の丸井さんの撤退という衝撃的な出来事をきっかけに、商工会議所や市民の皆さんの中に中心市街地を何とかしなくてはいけないという気持ちが強まったのではないかと思います。またこれから超高齢化社会になっていくことを考えた時に、これ以上郊外にまちを広げていくのではなく、どれだけ多くの人に中心市街地に住んでいただくかということが、今後のまちづくりに大変重要になってくるのかなと思っております。高齢者になればやはり歩いていけるところにお店や病院があるところに住みたいでしょうし、今後おそらくそういったニーズが増えてくると思っております。それに向けて今から準備をしていかなければいけないですし、中心市街地というのは買物公園だけではないですから、駅前中心一帯をどう整備していかというのが課題と思っております。

⑪新道の建設について

参加者F

まちづくりは車社会を抜きにしては考えられないと思います。そこで、富良野から西神楽を通過して市中心部へと至る国道 237 号線のどこかを基点として、そこから国道 12 号線または高速道路に直線的に抜ける道路をつくってはどうか。このような道路があるといろいろと活用できると思います。聖和の方から国道 12 号線や高速道路に抜ける道路をつくることで、旭川のまち中は通らないですが、利便性が良くなって、いつかは活性化につながってくるのではない

かと思います。

市長

美瑛方面からの国道 452 号線が聖和の国道 237 号線の交差点とつながっています。この国道 452 号線は途中で未開通区間があり、ここが開通すると芦別市の方へと抜けることができるようになります。そうするとまた少し車の流れも変わってくるのかなと思っています。今後いろいろと検討しながら考えてみたいと思います。

⑫道の駅について

参加者F

道の駅「まるせつぷ」が大変賑わっています。高速道路を降りるとすぐにこの道の駅があり、高速道路の無料化実験で多くの車が寄るようになったようです。

旭川鷹栖インターチェンジには、士別方面、上川方面、深川方面へ行く車が通ります。そこでここに旭川の道の駅をつくって、札幌、名寄、上川、層雲峡から来る人たちが寄るようにしてはどうでしょうか。

⑬市に対する要望の方法について

参加者G

市内には 64 の地区市民委員会があります。それぞれ市に要望を上げていると思いますが、各地域においていろいろな要望をそれぞれの市民委員会で優先順位を決めて、そして市に提言するような仕組みができると、要望を出す方も受ける側の市の方も効率的になると思いますし、また市でそれらの要望事項を施策として進めるときも非常に効率的になると思います。

⑭市職員の町内会加入について

参加者G

町内会に加入していない市の職員がいますが、町内会にも入らないようでは住民との信頼関係は絶対に成り立ちません。町内会活動に参加することは市の職員にとって、その地域の情報を収集する一番のチャンスだと思いますので、少なくとも町内会には加入していただきたいと思います。

市長

研修などの様々な場面で職員に対し町内会への加入を促しておりますが、引き続き全職員が町内会に加入するよう担当する部署で取り組んでいきたいと思っています。

⑮市街化調整区域について

参加者G

西神楽地域のまちづくりにとって、市街化調整区域は非常に大きな障害となっています。もしこの調整区域がなければ、西神楽地域はもっと活性化するのではないかと思います。

⑯西神楽公民館と農業構造改善センターの指定管理者による運営について

参加者H

西神楽公民館と農業構造改善センターの運営については、行政がやっていたことをベースにそのまま続けておりますが、指定管理者制度導入の趣旨は地域の皆さんとの交流を深め、地域住民が一体となってこの公民館活動を行っていくということですので、各関係団体や事務局のスタッフ、そして地域の皆さんと力を合わせてこれからも努力してまいりたいと思います。

市長

私どもも引き続きお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

【市長終わりのあいさつ】

限られた時間でしたが、皆さんから地域の貴重なお話から、今後の旭川のまちづくりに至るまで、いろいろと貴重なご意見をいただきありがとうございます。今日いただいたご意見については、今後研究していかなければいけないものもありますし、また必要に応じて、関係する機関に要望していかなければいけないものもあります。私ども市として直接取り組んでいかなければいけない部分もたくさんあると思いますので、それらを整理させていただきながら、今後の行政のまちづくりの中でぜひ生かしていきたいと考えております。

これから収穫の時期に入っまいります。毎日暑い日が続いてますが、秋になるとあっという間に冬になりますので、皆さん方も体調を崩されませんように気を付けていただきまして、今後とも引き続きよろしくお願い申し上げます。

簡単ですが終わりにあたってのお礼のあいさつに変えさせていただきます。今日はありがとうございました。